

図書・資料室だより

年をかさねても、いきいきと生きるために

2030年には我が国の人口の約3分の1（32.1%）が65歳以上の老年人口になると予測されています。今回は、年をかさねても、いきいきと健康的な生活を送るためのヒントになる本を集めました。みなさんも、是非この機会にご自身の定年後や老後の生活について考えてみませんか？

参考：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成30年3月）」



『終わった人』

内館牧子:著 講談社 2015年
長年の銀行勤めを定年退職し、退職後は妻と寄り添って生きていこうと思っていたものの、妻は生き活きと仕事に励む毎日。生きがいや居場所づくりに模索する中、人との出会い、新しい仕事との出会いで人生が思いもよらない方向に向かっていき…。2018年映画化。



『「徹子の部屋」の花しごと』

石橋恵三子:著 産業編集センター 2018年

1976年に始まった「徹子の部屋」の第一回放送から11000回以上にわたり番組の花を生け続けてきた著者。テレビや映画で使用される花や食べ物を準備する「消えもの係」を日本で初めて開拓し、現在も担当し続ける50余年の人生の、花とゲストにまつわる感動の回想録。



『おひとりさまの老後のお金と暮らしの本』 百田なつき:著 マイナビ 2015年

年金、老後の住まい、親の介護、相続など、知っておきたい老後のお金と暮らしにかかわる情報を、まんがや図表などでわかりやすく解説。

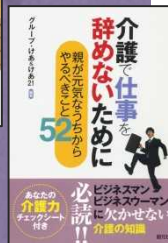
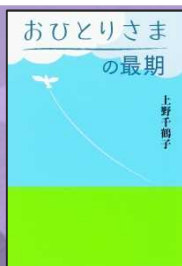


『親が倒れた！』

桜井さんちの場合

小林裕美子:著 新潮社 2015年
いつまでも元気でいてくれる気がしていた…。

突然倒れた父の介護。助けになりたいけど、目の前の生活で手一杯の子どもたち。子どもに迷惑をかけないようにと奮闘する両親。それぞれの気持ちと事情を細やかに描いたハートフル・コミック。



『男の“ええ加減”料理はフライパンひとつ 60歳からの自立飯入門』

石蔵文信:著 講談社 2016年

“男子厨房に入るべからず”と育った世代には、料理をすることに抵抗があるかもしれないが、やればできるという達成感が人生を楽しく変えてくれるはず。文字や調理手順の写りが大きく、見やすく配置されていて、巻頭からひと品ずつチャレンジしたくなるような一冊。

さんかく☆ミニ講座

男女共同参画に関する、ことばや数字を紹介するコーナーです

SDGs(エスディーゼズ)



Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

2030年までに、発展途上国だけでなく、先進国も含めた国際社会が、より良い未来に向かって取り込むべき17の目標です。2015年9月の国連サミットで採択されました。

滋賀県は、全国に先駆け、2017年1月以降、SDGsを県政に取り込んでいます。

取り組みのひとつとしてSDGsへの理解が社会全般に広がることを期待して、所属や職員がSDGsに取り組むことを「行動宣言！」しています。男女共同参画センターでは、まさしく目標No5「ジェンダー平等を実現しよう」を目指す県の拠点施設として各種事業を実施するとともに、「ジェンダー平等」はSDGsの17すべての目標の達成に大きく関与しているため、「ジェンダー平等」を目指すセンターとして、県民・企業・NPO・教育機関など多様な主体と連携し、あらゆる分野への「ジェンダー平等」の視点反映を目指すこととし、事業を通じて県民の声を県に届ける、県と県民をつなぐ役割を担ってまいります。



男女共同参画の関連雑誌を紹介



『ジェンダーと法』
ジェンダー法学会 編集
(年1回発行)

2003年、法学をジェンダーの視点から研究するジェンダー法学会が発足、翌年より年一回学会誌として発刊。最新号(2018年)では、公的年金制度におけるジェンダー格差についてや、LGBTIの権利保障について、ジェンダー法学の視点からアプローチしています。

図書・資料室 ご利用案内

- 開室時間 9:00~17:00
- 1月の休室日 1~4日、7日、15日、21日、28日。
- 貸出 (本・雑誌) 15冊 3週間まで (ビデオ・DVD) 2本 1週間まで
- お問い合わせ先(電話)
0748-37-3735 (図書・資料室直通)
0748-37-3751 (センター代表)

☆県内在住・在勤・在学の方は、
どなたでもご利用いただけます。



図書・資料室だより

おとこもつらいよ

男女共同参画社会の実現に向け、さまざまな取り組みがなされています。ワークライフバランス、男性の育児休業取得、男性介護、おとう飯…。私たちを取りまく環境が少しずつ変化していることによる戸惑いから、生きづらさをかかえている男性もいるのではないのでしょうか。今回は男性の「つらい」をテーマにした本を集めました。



『男性は何をどう悩むのか—男性専用相談窓口から見る心理と支援—』 濱田智崇著
ミネルヴァ書房 2018年
日本で初めて男性専用相談窓口を開設した著者たちが、現代に生きる男性特有の悩みを事例別に検討。現代の「男性」像に迫るとともに、具体的な支援のあり方を示す。



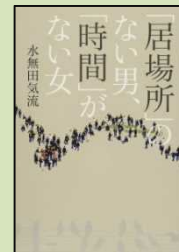
『不自由な男たち—その生きづらさは、どこから来るのか』 小島慶子・田中俊之共著
祥伝社 2016年
親子関係、育児、働き方など、さまざまなテーマで「男の生きづらさ」について議論する。男女が互いに生きやすくなるために自分や相手をどう受け入れるべきかを考えさせられる一冊。



『迫りくる「息子介護」の時代—28人の現場から』 平山亮著 光文社 2014年
28人の息子介護者からの聞き取りをもとに、息子介護者の妻やきょうだい、会社の同僚や近所の人など周りを取りまく人との関係や、介護や家事での苦勞、職場との両立についての難しさにも焦点をあてる。



『イクメンじゃない「父親の子育て」—現代日本における父親の男らしさと「ケアとしての子育て」』 巽真理子著 晃洋書房 2018年
メディアから見える「イクメン」の概念は「仕事第一の男性が、家にいる間は子育てに関わる」というものだが、それでは、父親が日常的、主体的に子育てに携わることは難しい。父親へのインタビューを分析することによって、「イクメン」ではない「父親の子育て」の実践の可能性を考察する。



『「居場所」のない男、「時間」がない女』 水無田 airflow 著 日本経済新聞出版社 2015年
仕事以外の人間関係が乏しくて居場所がなく、孤立しがちな日本人男性。男性の価値観やとりまく状況など、居場所を失う原因を検証し、生きやすくなるための方法論を提唱する。

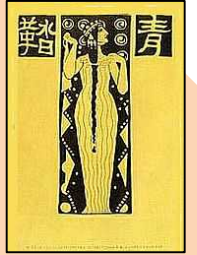


さんかく☆ミニ講座



『青鞆』

男女共同参画に関する、ことばや数字を紹介するコーナーです



『青鞆』は、女性の手による初めての文藝雑誌として、1911(明治44)年9月に創刊され、以降大正5年2月まで52冊が発行されました。

誌名となった「青鞆」とは、18世紀半ばごろ、ロンドンのモンターグ夫人のサロンに集まって、さかんに芸術や科学を論じた新しい婦人たちが青い靴下をはいていたことから、何か変わったことをする新しい婦人に対して嘲笑的な意味で使われていた「blue stocking」を訳してあえて使いました。発起人は、中野初子・保持研子・木内錠子・平塚明子(らいてう)・物集和子の5人。いずれも20代半ばの若い女性たちでした。

創刊号の表紙を描いたのは長沼智恵。のちの高村光太郎夫人で『智恵子抄』にうたわれた人です。また、平塚らいてうの「元始、女性は太陽であった。」は、教科書にも載っている有名な文章ですが、平塚はこれを一晩で一気に書き上げました。

創刊号の最初のページに掲載されたのは與謝野晶子の「そぞろごと」と題した詩です。その冒頭は「山の動く日」と題された8行の詩で、1980年代にたくさんの女性議員が誕生した際に比喩として引用されました。

参考文献 『青鞆 第1巻 第1号』 『平塚らいてう わたくしの歩いた道』平塚らいてう(日本図書センター)

『「青鞆」の冒険一女が集まって雑誌をつくるといふこと』森まゆみ(平凡社)

『日本近代女性文学論一問を拓く』渡邊澄子(世界思想社)

男女共同参画の
関連雑誌を紹介

G-NET シネマ



『グッモーエビアン』 2013年/106分/

監督:山本透/原作:吉川トリコ/出演:大泉洋

元パンクバンドでシングルマザーのアキと、娘ハツキのもとに、海外で放浪生活を送っていた通称父親が戻ってきた!

12月22日(土)13:30~滋賀県立男女共同参画センター
《参加無料&申込不要》

原作本あります。
予約受付中!

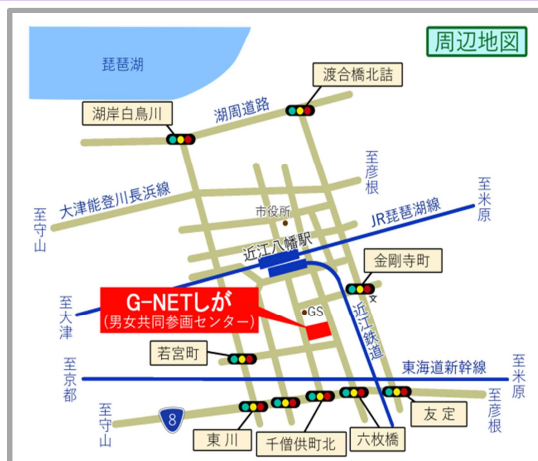


『季刊セクシュアリティ』

エイデル研究所 発行
本誌は、性に関する教育の実践活動や豊富なデータを紹介する、人間と性をめぐる教育と文化の総合情報誌。対話形式の事例とその対応についてのわかりやすいアドバイスが提示されているので、学校関係者だけでなく、学生や保護者などにもおすすめの雑誌です。

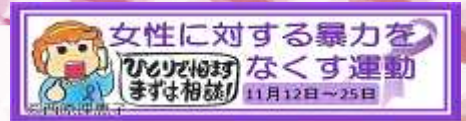
図書・資料室 ご利用案内

- 開室時間 9:00~17:00
- 12月の休室日 3日・10日・17日・25日・28日~1月4日
- 貸出 (本・雑誌) 15冊 3週間まで (ビデオ) 2本 1週間まで
- お問い合わせ先(電話)
0748-37-3735 (図書・資料室直通)
0748-37-3751 (センター代表)
- ☆県内在住・在勤・在学の方は、どなたでもご利用いただけます



図書・資料室だより

11月12日から11月25日は

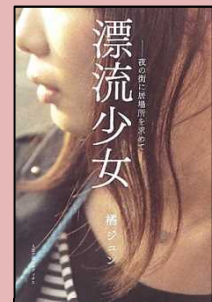


「女性に対する暴力をなくす運動」が実施されます。

暴力は、その対象の性別や加害者、被害者の間柄を問わず、決して許されるものではありませんが、特に女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。内閣府では、この運動を一つの機会ととらえ、地方公共団体、女性団体その他の関係団体との連携、協力の下、社会の意識啓発等、女性に対する暴力の問題に関する取組を一層強化しています。



『Black Box ブラックボックス』
伊藤詩織;著 文藝春秋 2017年
レイプ被害に遭ったジャーナリストである著者が、密室での性犯罪での、被害者に対する捜査のあり方、社会の受け入れ態勢、法制度など様々な“ブラックボックス”に直面し苦しみながらも、密室での「事実」を伝えるために自らの体験を記したノンフィクション。



『漂流少女 夜の街に居場所を求めて』
橋ジュン;著
太郎次郎社エディタス
2010年

今年度当センターで行われた「デートDV防止啓発セミナー」講師の活動の原点ともいえる本。夜の街を漂流する少女たちに声をかけ話を聞く。援助交際、リストカット、妊娠…。様々な現実にとともに向き合った著者と少女たちの記録。



『新・気づいて乗りこえる』
長谷川七恵・グループしおん著
メディアランド 2015年
精神的DV(モラルハラスメント)に悩む女性のためのガイドブック。チェックリストをやりながら解説を読むことで、自分自身が相手から受けているコントロールとその影響に気づき、乗り越えるヒントを得られるようになっていく



平成30年度 内閣府
「女性に対する暴力をなくす運動ポスター」

『アカデミックハラスメントの解決 大学の常識を問い直す』
北仲千里・横山美栄子;共著
寿郎社 2017年
パワーハラスメントの大学版とも言えるアカデミックハラスメント。理不尽な叱責や差別発言、長時間の実験の強要など、その本質に迫る。さまざまな事例を挙げながら、実践的な解決方法も提示している。



さんかく☆ミニ講座

男女共同参画に関する、ことばや数字を紹介するコーナーです



SATOCO

SATOCO(サトコ)とは、

滋賀県における性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターです。

性暴力被害者総合ケアワンストップ びわ湖

Sexual Assault victim TOveral Care One stop BIWAKO

24 時間ホットライン

ニッコリキューキュー サトコ

090-2599-3105

E-mail

satoco3105biwako@gmail.com



女性の相談員と看護師、そして医師が、安全で協力的な環境のもと、あなたの「からだ」と「心」の総合的なケアを行います。

【性犯罪】

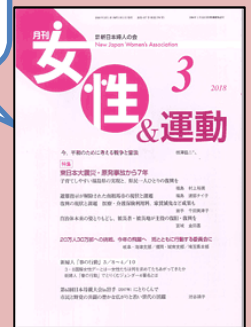
【性暴力】

【アダルトビデオ出演強要問題】

【JKビジネス問題】など

もしあなたが被害にあわれたら・・・
ひとりで悩まず、
まずは SATOCO に電話・メールを・・・

男女共同参画の
関連雑誌を紹介



『女性&運動』

新日本婦人の会 発行

図書・資料室 ご利用案内

●開室時間 9:00~17:00

●11月の休室日 5日、12日、19日、24日、
26日。

●貸出 (本・雑誌) 15冊 3週間まで
(ビデオ) 2本 1週間まで

●お問い合わせ先(電話)

0748-37-3735 (図書・資料室直通)

0748-37-3751 (センター代表)

☆県内在住・在勤・在学の方は、
どなたでもご利用いただけます。



全国で取り組んでいる女性運動や、豊かな活動を紹介するとともに、時どきの問題に女性の視点からせまり、国内外の女性問題や調査資料などを掲載した月刊誌。当資料館では前身の「新婦人情報 No.46 (1987年4月号)」から所蔵しています。